

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.37 和尚の説法で 悟った山部聡

「アホやな。ここをどこやと思てんねん。健康道場やろが。和尚の目は節穴とちゃう。ちゃんと自分と向き合って大病をした自分の人生をやり直せるならどうしたらいいかを考える場所や。そのためには現実と素直に向き合わなあかんのや！」

御手洗透が山部聡をたしなめた。

「ほ～。あのやんちゃ坊主の御手洗透がそんなことを言うようになったか」

和尚は愛弟子の成長に目を細めた。

「よいか山部さん。人間には先祖より授かった命というものがある。これは文字通り肉体という意味と運命・寿命という意味じゃ。あなたの先祖は厳しい自然環境を生き抜くために必要な教訓を遺伝子としてあなたに紡いだ。その情報をもとにあなたは現在を生きている。だが、言葉を変えると、あなたも今自分のもつ情報を子孫に伝えられるかどうか

かを試されていると言っても過言ではない。自然の淘汰を受けているのじゃ。この環境の変化に順応できれば、その情報いわばノウハウを子孫に伝えられるし、淘汰されれば、あなたの持つ遺伝情報は終止符を打つ。環境に順応できるもののみが次世代に進める双六のようなものじゃ。天はそれぞれの動物に特技を一つ与えた。獲物をとるために足の速いチーター。オオカミの鋭い牙。大きな体の象。そして、人間には考える知能を与えた。というよりは、我々の祖先が勝ち取ってきた特技と言えよう。そして、人間は本能をもコントロールできる意志も勝ち取った。この意志は両刃の剣として裁量は己に与えられておる。つまり、長い寿命を授かっても、不摂生が続けば寿命が短くなる。例え遺伝子上はハンディキャップが大きくとも、生活スタイルを正せば健康に長生きできる。分かるかの～。病気も付き合い方ということじゃ。」

和尚の説法にはたっとすべてを悟った山部聡。健康に無頓着に、仕事第一で身体を酷使したついで脳梗塞による高次機能障害を残したことの意味をすべて悟った。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一